

『自分で自分をほめたい』

朗読者 有森 裕子

07

私はランナーとして、アスリートとして、さまざまな活動をしていきます。そこから学んだことについてお話します。

10

私自身、子どもの頃は何一つ自信を持てるものなんてありませんでした。そんな時に「走ることに出会い、一生懸命に頑張ることで生きていく希望と勇気をつかみ、多くの感動と出会いを与えられました。」

15

「はじめて自分で自分をほめたいと思います」。
アトランタオリンピックで銅メダルを取った時のインタビューで、思わず出た言葉です。

20

バルセロナオリンピックの後、悩み、立ち止まるような思いをして、やっと出場できたアトランタオリンピック。「生きる」ために、必ずメダルを獲得しようと自らに課した目標。なので銅メダルがとれたことは素直にうれしくて、スタートラインに立てる喜びをかみしめ、最後まで走り切れたことに感謝した瞬間に、出た言葉でした。

私はあらためて、これらの経験を通して、他の人の元気につながる活動の場を作っていきたいと思いました。それが自分自

身の力になると思ったのです。

私は、スポーツ選手たちのサポートと共に、スポーツの世界で活躍した人たちが競技生活を離れた後も、その生きてきた経験を持って人生が送れるように、いろいろな機会を得られるマネジメント会社を、知人と共に立ち上げました。

きっかけは、ランナーとして、自分自身が悩んだこと、苦しんだことを、スポーツを通じて生きている仲間と共有し、社会のために何か出来ればと思ったのです。

競技生活で得た成果が、生活の豊かさにつながることで、自分の価値観を大切に、自分らしい幸福な人生を創れること。アスリートひとりひとりの競技・生活・人生という3つの夢の実現を応援していきたいと考えています。

私たち一人一人が、自分のキャリアを生かし、自分らしく活躍できる社会。それは、みんながお互いを評価し、認めあう社会にもつながっていきます。